特集１
通信インフラ機器
Special Issues 1
Communications Networks
Equipment

無線通信の発展に寄与して

Contributing to the Development of Wireless Communication

執行役員　通信インフラ事業部長
窪　田　昌　治
Shoji Kubota
Executive Officer
Communications
Networks Division

皆さんはもうスマートフォンをお持ちでしょうか。あるいは「パソコン替わりにタブレット端末をいつもバッグに入れて持ち歩いている。」という方もいらっしゃるのではないでしょうか。

インターネットアクセスを容易に実現できるこれらのモバイル端末の急速な普及は単に端末市場の活性化だけでなく「通信トラヒックの急増に対応するインフラ整備をどのように行うか」という新たな課題を生み出しました。

通信トラヒック増大の要因はデータ通信であり，データ定額が当たり前となったビジネスモデルにおいて，通信事業者様はより安価にネットワークの増強を行わなければなりません。周波数は有限の資源であり，帯域を増やすのは容易ではありません。通信事業者様におけるこの課題解決の方策は主に以下のように考えられます。

（１）LTE，WiMAXといった周波数利用効率の高いシステムの導入
（２）同一周波数をより多くのユーザーが使える小セル化
（３）WiFi，WiMAXなど他システムとの組み合わせによるオフロード化

このようなニーズに応えるため，私たちは，

（１）LTE，WiMAXなどワイヤレスブロードバンドに対応した機器の開発
（２）小セル化でも導入しやすい小型，軽量，安価な機器の開発

を行って参りました。
本特集ではその一端をご紹介できればと考えております。

最後になりましたが東日本大震災で被災された方々に改めてお見舞い申し上げます。

被災された方々の大きな不安のひとつに「情報が伝わらない」ということがありました。壊滅的打撃を受けた通信ネットワークにおいて素早い復旧を実現したのは無線の力でした。「無線は災害に強い」と，その重要性が再認識されています。

被災地の一日も早い復興を願うと共に無線機メーカーとして高度な無線技術を通じて被災地の復興に寄与できるよう努力して参ります。